



T-MOREプロジェクトの設置 (大学院生への国内留学支援制度)

TAIGA **M**entorship **O**n **R**esearch and **E**ducation

新学術領域研究の範囲で求められる人材育成とは？

募集の趣旨（新学術領域研究）

既存の研究分野の枠に収まらない新興・融合領域や異分野連携などの意欲的な研究を適切に見い出し支援するために（中略）「新学術領域研究」を新設

研究種目の内容・目的 新学術領域研究（研究領域提案型）

研究者又は研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成等の取り組みを通じて発展させる。

単一の学術分野に捕らわれない異分野融合型人材の育成

学振特別研究員制度も研究室の移動を推奨している

特別研究員－P Dの研究従事機関について

特別研究員－P Dの研究従事機関については、募集要項で「採用中、研究に従事する研究室が大学院在学当時の所属研究室（出身研究室）以外の研究室であること（以下「研究室移動」という。）」とされています。

（中略）

出身研究室以外の異なる環境において研究することは、研究の視野を広げ新たな着想を得るために、非常に重要なことです。

異なる研究環境に触れることは人材の育成という点で重要

これまでの大河での人材育成への取り組み

PDの採用において分野融合を重視

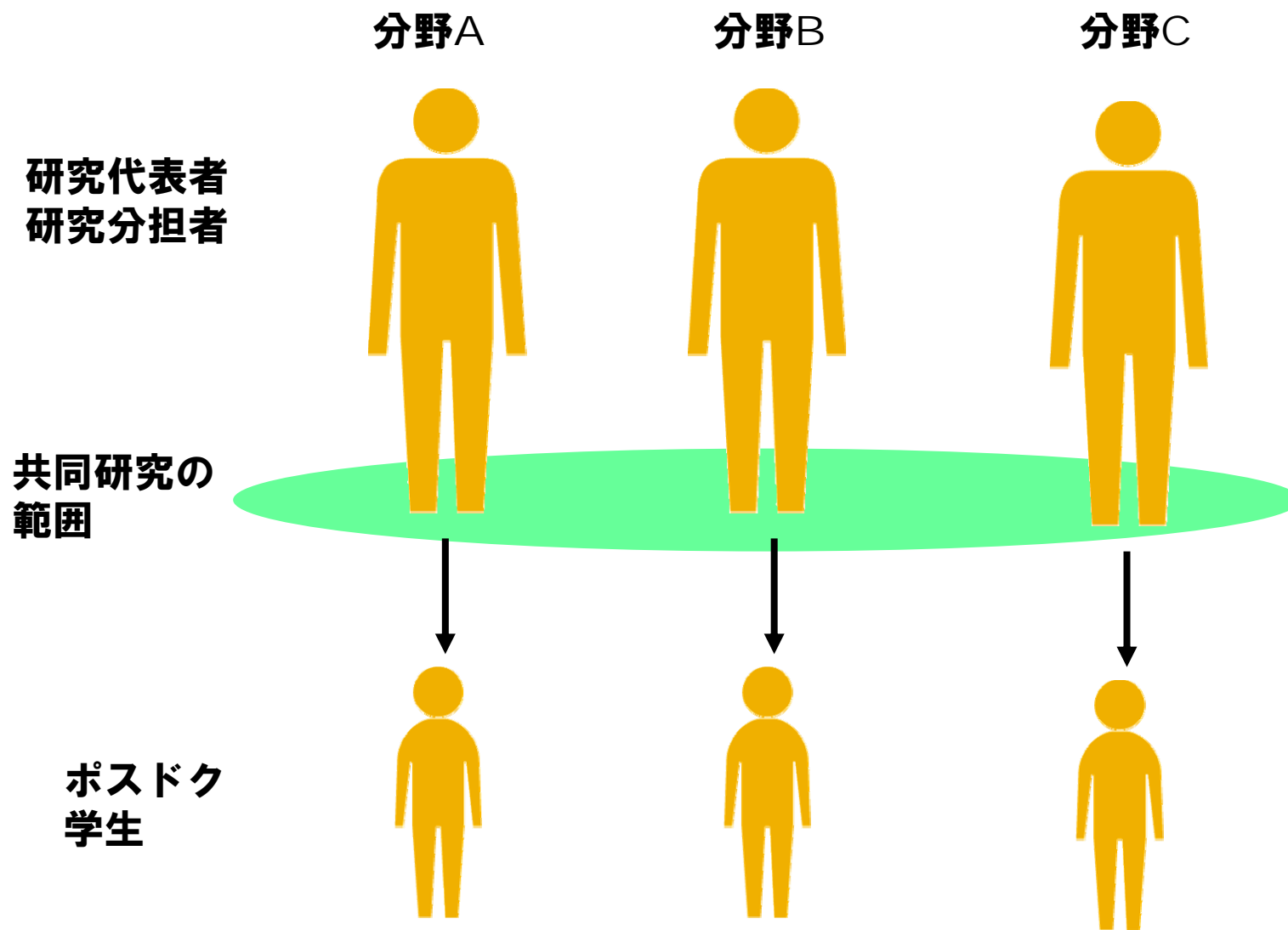
PD	班代表	テーマ
A02	井尻（有機地球化学）＋砂村（微生物生態学）	→有機物－微生物リンクの解明
A04	川口（分析地球化学）＋高井（地球微生物学）	→極限下での微弱代謝の検出
A05	加藤（環境微生物学）＋鈴木（実験地球化学）	→化学合成培地での微生物培養

分野横断研究の場としての研究航海参加を重視

研究航海は分野横断研究の現場であり、合宿のような側面がある。
学生への航海旅費援助は人材育成援助でもある。
（しかし、あくまで実行することは手前の仕事）

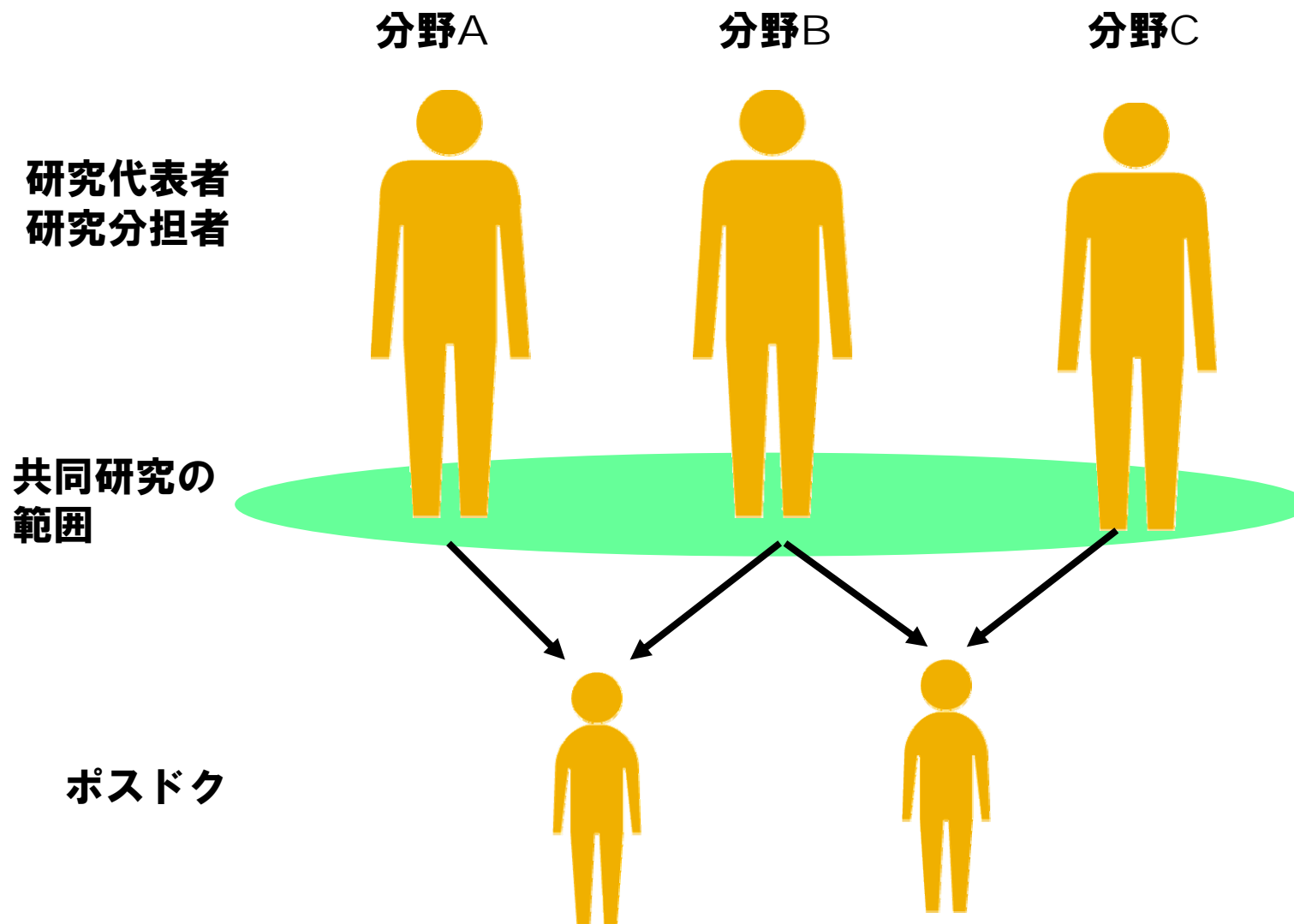
分野融合（横断）研究への若手人材の参加を促している

従来型共同研究での人材育成



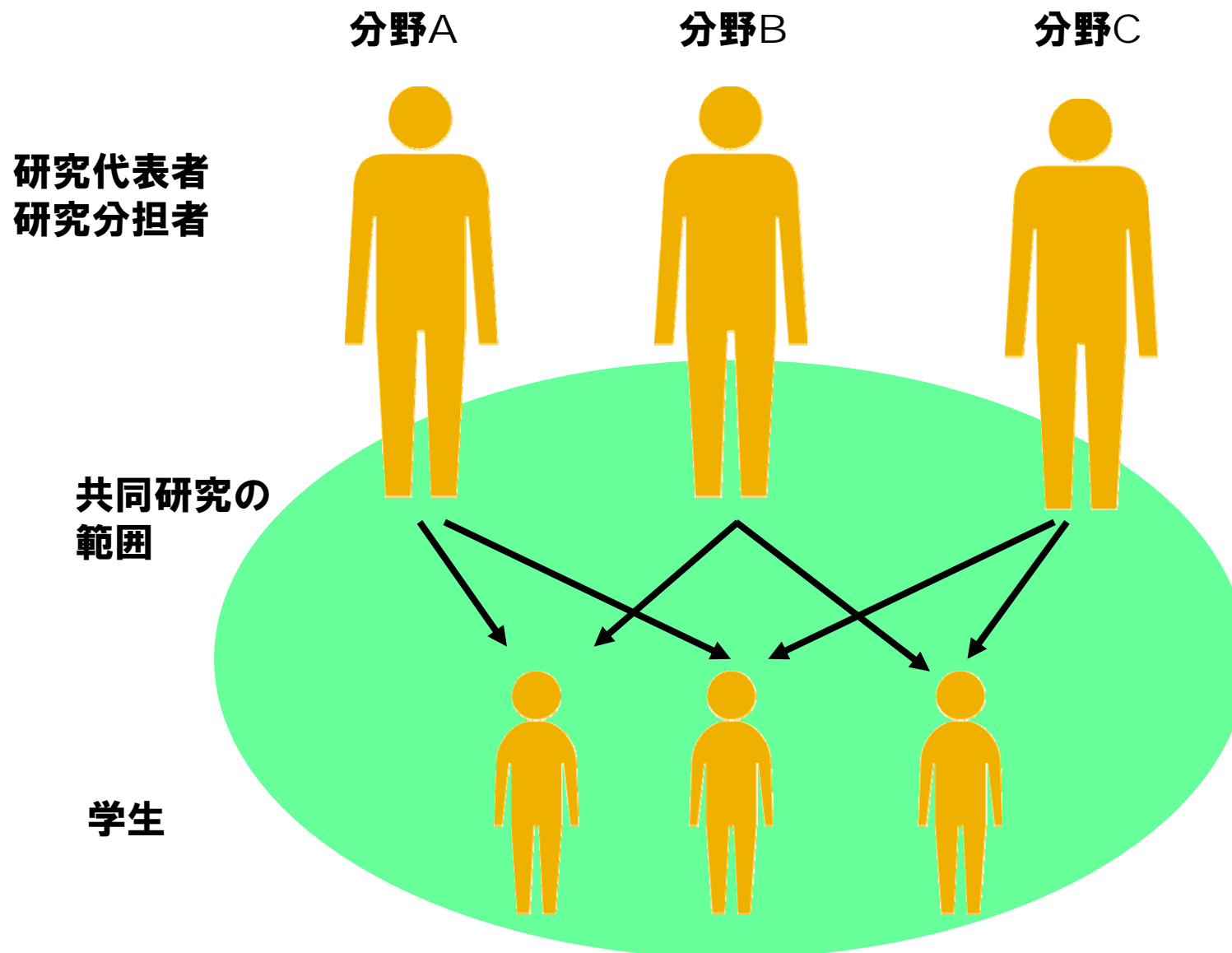
それぞれの分野で独立した人材育成

分野横断型共同研究での人材交流（大河計画のここまでの取り組み）



独立した複数分野で人材育成

分野横断型共同研究での人材育成（T-MOREプロジェクト）



新学術領域研究で融合した分野全体で人材育成

国内留学と海外留学の違い

海外留学は、同一分野の一流研究者との交流が目的



既存研究テーマの深化

国内留学は、同領域内の異分野との交流が目的



境界領域における研究テーマの創出

海外留学は様々なファンドがあるが国内留学をサポートするファンドは無い

たとえばTAIGAと密接に関連する国際InterRidge計画で
International Student Fellowshipがすでに行われている

**新学術領域研究の趣旨に合致する
人材育成法は国内留学**